

令和5年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	観点別で見ると、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に関する設問の正答率が全学年を通して低い傾向が見られる。特に記述の回答において課題が見られており、無答率も高い。言葉や文に親しみ、「書くこと」の楽しさや価値を感じられるように、低学年のうちから段階的に言語能力の向上に向けた指導の充実を図っていく必要がある。
社会	観点別で見ると、すべての項目において、正答率が低い傾向が見られる。特に、「主体的に学習に取り組む態度」に関する設問の正答率が低い。また、社会的事象に関する知識の習得に課題が見られる。社会生活と関連させながら考える時間をしっかりと取り、獲得した知識を活用することで総合的な理解につなげていく必要がある。
算数	観点別で見ると、「主体的に学習に取り組む態度」に関する設問の正答率が目標値を下回っている学年が多い。図形、変化との関係における課題が根底に見られるため、操作的活動を取り入れながら、答えを導くまでの考え方を整理して伝える活動を充実させる必要がある。
理科	観点別で見ると、「主体的に学習に取り組む態度」と「知識・技能」に関する設問の正答率が目標値を下回っている学年が多い。事象との出会いや問題把握の時間、振り返る時間を丁寧にとり、問題解決的な学習を進めていくとともに、観察・実験などの結果から導き出した結論を意味付けたり、関係付けたりしてより深く理解させる必要がある。

本校の教育目標
◎たしかに ○ゆたかに ○げんきに ◎は重点目標 変化の激しい社会の中で、一人一人の児童が自分のよさや可能性に気づき、多様な立場の者と協働しながら様々な社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていくことのできる資質・能力を養うことを目指す。

本校が児童に育成したい力
(知育)基礎的・基本的な学力を習得し、自らの生活に生かすことができる児童 (徳育)思いやりの心と感謝の気持ちをもつことができる児童 (体育)心身ともに健康で、継続的に努力することができる児童

学力向上にかかわる経営方針
・課題解決的な学習の展開 ・道徳教育の充実 ・特別活動の推進 ・人権教育の推進 ・一人一台端末の効果的な活用(ICT活用) ・算数科における習熟度別学習 ・高学年における教科担任制 ・家庭学習の習慣化(タブレット併用) ・学習スタンダードの設定(授業規律等) ・ALTとの連携 ・NIE教育 ・校外学習・体験学習の充実

校内における学力向上推進体制
・研究推進部、学力向上委員会などの組織を中心とし、学習規律の統一、学習指導における工夫・改善及び評価、校内全体の共通理解を行う。 ・各種調査結果の分析に基づいた課題把握と指導改善に向けた活動を行い、学習指導等に関する教員の研鑽の場を設定する。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法 の工夫	教育課程編成上 の工夫	校内における研究 や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
・毎時の学習のめあてや学習の流れを提示 ・「北区基礎・基本の定着度調査」の結果分析に基づき、課題を捉え、指導の工夫・改善 ・北区GIGAスクール構想の具現化 ・「スクールタクト」や「ロイロノート」などの効果的な活用	・学力パワーアップ講師や理科支援員、ICT支援員の効果的な活用 ・算数科において、低学年からの習熟度別少人数指導 ・朝学習の時間を活用した反復学習 ・基礎基本の定着をねらいとした、サマースクール(夏季補習教室)の実施	・研究主題「主体的に学び続ける児童の育成」に重点を置いた研究 ・年3回の管理職による授業観察を通じた指導育成 ・学年・学級を超えた授業観察を通じた教員個々の研鑽の場の設定 ・各種研修会等への積極的な参加	・学習活動に応じた評価の場面や評価方法の適切な選択 ・文部科学省国立教育政策研究所による評価規準を鑑みた、学習指導と評価の一体化の推進 ・研究主題に関連し、主体的に学習に取り組む態度の評価を見取る場面や方法の具体化及び実践	・家庭学習や学習習慣の定着の推進 ・各種学力調査結果の分析結果・方策の公開 ・学校公開、学校評議員会等による、教育活動の発信 ・地域人材を活用した授業実践 ・家庭や地域の方の教育活動への積極的な参加と協力体制づくりの促進